

1 自己評価及び第三者評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2893000600		
法人名	社会福祉法人 博愛福祉会		
事業所名	ゆとり庵『一步』		
所在地	尼崎市大庄北3丁目14番27号		
自己評価作成日	平成29編12月1日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.jp/28/
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 H.R.コーポレーション		
所在地	兵庫県西宮市甲陽園本庄町6-25-224		
訪問調査日	平成30年1月8日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

人としての尊厳を重んじ、人生の先輩としての尊厳の念をもって、利用者の自立支援に心がけます。利用者ひとりひとりの声を大切に、安らげる家庭的な雰囲気のもとに、安心して快適な生活が楽しめるよう心がけます。地域の人々やボランティアの方々のご協力のもとに、地域に開かれた施設を目指し、地域福祉の拠点としての役割をにないます。

【第三者評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

同法人の特別養護老人ホームと併設された事業所である。地域の催しへの参加や、各種のボランティアの来訪など、地域交流に取り組んでいる。利用者個々の状態を把握し、排せつ介助・入浴介助など残存機能を活かした自立支援に努めている。旬の食材を使った食事、行事食、選択食、月初の赤飯等、多彩な献立を取り入れた食事を提供し、利用者が力や好みを活かしながら、食事づくりに参加できる機会も設けている。施設の夏祭りなどに家族を招待し、共に食事をしながら家族との連携にも努めている。法人の研修や委員会を活用して職員の資質向上に取り組み、また、利用者の状況に応じて法人施設でのバックアップ体制が整備されており、併設のメリットを活かしている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および第三者評価結果

自己	第三者	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	実践できている。	事業所として、法人の理念を共有しつつ、地域社会に貢献するという地域密着型サービスの意義・役割を、事業所の理念の中で明確にしている。法人の新理念、Hinode prideを事業所内に掲示している。判断に迷った事例について、職員会議・申し送り時等に理念を拠り所にして話し合っている。人事考課制度での面談時に、理念の実践につなげる事業所の方針を伝え、職員への理解と浸透に努めている。また、職員参画のもと、新たな事業所独自の理念作成を検討している。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	実践できている。	老人会に加入し、公民館での食事提供等に協力している。利用者と共に、ふれあいサロン・総合センター、教会等でのイベントに参加し、民謡・編み物・ネール・生け花等のボランティアの来訪があり、利用者の楽しみとなっている。施設の夏祭りに、地域住民の参加があり利用者で交流している。近隣の神社の祭りへの協力、認知症サポーター養成講座の講師受託、地域包括支援センターと連携し地域の独居高齢者の見守りを行うなど、地域貢献にも取り組んでいる。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	実践できている。		

小規模多機能ゆとり庵一步

自己	者 第三	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	実践できている。	利用者・家族代表、町内会長・民生委員・地域包括支援センター職員又は市職員を構成メンバーとして2ヶ月毎に年6回開催している。会議では、利用者状況・行事、実習生受け入れ等事業所の活動報告・事故報告等を行っている。また、参加者から、地域の高齢者の動向、地域の行事、民生委員活動状況などの情報を把握して、意見交換を行い、サービス向上に活かしている。	議事録を個人情報に配慮しつつ、全家族に会議録の送付、事業所内設置等で公開することが望まれる。知見を有する者の選任を行ってより多くの意見等を把握できる仕組みづくりが望まれる。また、引き続き利用者への参加を呼び掛けることが望まれる。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と同頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	実践できている。	地域包括支援センター職員又は市職員が運営推進会議に参加しており、そこで事業所の取り組み等を伝えている。市の集団指導に参加し、提供された情報を運営に反映させている。市職員が参加するケアマネ連絡会で情報交換を行い、相談や課題があれば、市の担当窓口を訪問して助言を受けている。認知症高齢者SOSネットワーク、認知症サポーター養成講座開催等で市の高齢課と連携を図っている。小規模多機能事業所連絡会の設立に向け、市と相談を行っている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	実践できている。	隣接する同法人施設との年間合同研修計画に沿って、身体拘束廃止に向けて禁止されている具体的な行為、3原則等を学ぶ機会を設けている。受講者は研修レポートを提出し、出席できなかった職員には資料配布、レポート提出により共有を図っている。重要事項説明書に身体拘束廃止を明示するとともに、代替策をしっかりと検討し、身体拘束をしないケアに取り組んでいる。玄関は施錠していないが、エレベーターは操作が必要であり、外出希望がある時は、職員が付き添って対応している。	

小規模多機能ゆとり庵一步

自己	者	第三	項目	自己評価	外部評価	
				実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7	(6)		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	実践できている。	虐待防止についても上記研修で、虐待の種類等を学ぶ機会を持ち、不適切ケアにつながらないように取り組んでいる。訪問、夜勤、送迎職員等職種別ミーティングを採り入れ、意見提案等の把握に努め、また、食事会の開催等で職員のストレス等の軽減に努めている。認知症研修等で介護技術の向上にも努めている。家族の介護負担軽減が必要と思われる場合は、利用調整などを行い、家族支援にも配慮している。入浴時には利用者の身体状況に、送迎時・訪問時には家族や家庭の状況に留意し、事業所内外での虐待が見逃されることがないように防止に努めている。	
8	(7)		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	実践できている。	権利擁護に関する制度については、認知症研修時に学ぶ機会を設けている。成年後見制度を活用している事例や申請予定の利用者があり、後見人への定期的な状況報告等、職員は支援を通して制度を学ぶ機会を持っている。今後、制度利用が必要な事例があれば、実務を活かしながら地域包括支援センターなど関係機関と連携し、支援出来る仕組みがある。	職員が一定レベルの制度への理解を深め、また、家族への情報提供の為パンフレット等を設置しておいてはどうか。
9	(8)		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	実践できている。	契約前には見学・体験利用を勧め、小規模多機能の仕組みや事業所の特徴などをまとめたパンフレットを用いて、利用料金・医療との連携等を分かりやすく説明している。契約時には、契約書・重要事項説明書等に沿って説明し、事業所で「できること」「できないこと」を具体的に説明して理解と同意を得ている。契約内容に変更が生じた場合には、変更内容を文書で交付し同意を得る等、改正の内容に応じて適切に対応している。契約終了時は、契約書の条項に沿って、居宅介護支援事業所の紹介、情報提供等必要な援助を速やかに行い、円滑なサービス移行に向け支援している。	

小規模多機能ゆとり庵一步

自己	第三	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
10	(9)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	実践できている。	意見・要望等を聞く機会として、送迎時や連絡帳を活用している。モニタリング訪問時や介護計画見直し時等にも、意見・要望の把握に努めている。花見・夏祭り等事業所の行事時に食事を共にしながら忌憚ない意見を出してもらっている。把握した意見・要望は申し送りノートに記載して、職員間で共有している。個人的な要望が多いため、個別に迅速な対応に努めている。また、年1回食事アンケートを実施し、給食委員会で、集計・分析し献立等の改善向け取り組んでいる。	
11	(10)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	実践できている。	スタッフ会議で、職員が意見・提案を出し合い、会議後には訪問等職種別の分科会を開催して情報共有する仕組みづくりを行っている。人事考課制度での、年2回の個人面談時に、職員の意見や提案を個別に聞く機会も設けている。スタッフ会議・法人管理者会議時には施設長等の参加もあり、管理者が把握した職員の意見・提案を上位者に伝えている。また、自己申告カード、提案制度を利用して、法人本部に直接意見等を表出できる仕組みがある。申し送りノート記載方法の改善等職員の意見・提案を運営に反映させている。	今後も、スタッフ会議の定期的な開催と職員の参加促進に取り組むことが望まれる。また、議事録の回覧等により、出席できなかった職員にも共有できる仕組み作りが望まれる。
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	実践できている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	実践できている。		

小規模多機能ゆとり庵一步

自己	第三	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	実践できている。		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	実践できている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	実践できている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	実践できている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	実践できている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	実践できている。		

小規模多機能ゆとり庵一步

自己	者	第三	項目	自己評価	外部評価	
				実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
20	(11)		○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	実践できている。	前任ケアマネージャーや、家族から利用開始時に聴き取った情報は基本的には「ケアチェック表」に記録し、利用者に応じてアセスメントシートも活用している。日々の関わりの中で把握した情報は、ケース記録に入力し、馴染みの人や場所についての情報を共有している。地域の店舗・洋品店等への買い物や馴染みの美容院への送迎等、馴染みの場所に出かける支援に努めている。併設特養から、馴染みの人が来訪し、交流する機会も設けている。家族にも馴染みの場所への外出を依頼し、必要時には車イスの操作方法を伝えて貸与し、関係継続のための支援に努めている。	
21			○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	実践できている。		
22			○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	実践できている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント						
23	(12)		○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	実践できている。	利用開始時に把握した思いや意向はケアチェック表に記録し、日々の関わりの中で把握した思いや意向はケース記録に入力し、職員間で共有しながらサービス計画書に反映させ支援に努めている。職員が認知症介護実践者研修に参加して、意向等の把握が困難な利用者とのコミュニケーション方法を学び、利用者の表情や反応、家族からの情報等をもとに共有しながら、利用者の立場になって検討し支援に努めている。	

小規模多機能ゆとり庵一步

自己	者	第三	項目	自己評価	外部評価	
				実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
24			○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	実践できている。		
25			○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	実践できている。		
26	(13)		○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	実践できている。	前任ケアマネジャーの情報やケアチェック表を基に、初回の「居宅サービス計画書」を作成して課題の抽出を行い、居宅サービス計画書と整合を図りながら「小規模計画書」を作成している。以降は、基本的に6カ月毎に小規模計画書の見直しを行い、それに基づいて居宅サービス計画書を見直している。小規模計画を職員に周知し、日々のサービス内容実施状況はケース記録に入力し、重要な事項は管理日誌としてプリントアウトして共有している。モニタリング訪問での結果を基にスタッフ会議で見直しのための検討を行い、理学療法士のチェックシートで再アセスメントの上、小規模計画の見直しを行うことを検討している。	利用開始時のアセスメント、計画の見直し時のモニタリングと評価、再アセスメント等の書式の工夫が望まれる。理学療法士・訪問看護師・福祉用具等関係者の意見を記録として残すことが望まれる。また、スタッフ会議で見直しの検討を行ったときは、見直しのための会議であることを会議録に記載することが望まれる。(サービス担当者会議としての位置づけの為)
27			○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	実践できている。		
28			○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	実践できている。		

小規模多機能ゆとり庵一步

自己	者	第三	項目	自己評価	外部評価	
				実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29			○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	実践できている。		
30	(14)		○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	実践できている。	利用者の受診について、基本的にかかりつけ医への送迎支援を行い、受診には家族が付き添っている。看護師の配置があり、利用者の健康管理や日々の状態の変化の把握に努め、家族を通してかかりつけ医に伝達したり、必要時には事業所で記録したバイタル表などを提供している。長期の泊り利用者には、必要に応じてかかりつけ医が往診の便宜を図っている。往診・通院時の受診結果は、看護師が看護記録に記録し、ケース記録に入力している。大切な事項は申し送りノートへの記載と共に、プリントアウトして周知を図っている。	
31			○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	実践できている。		
32	(15)		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。		入院時には看護サマリーを情報提供している。入院中は、見舞いに行き、家族・病院関係者と連携を図りながら情報交換と早期退院に向け支援している。退院前には、退院カンファレンスに参加してカンファレンス記録と、退院時には看護サマリーの提供を受けて、閲覧により共有しながら、居宅・小規模計画書の見直しに反映させている。また、必要に応じて自宅を訪問し、退院後の生活に向けて環境整備を支援している。	

小規模多機能ゆとり庵一歩

自己	第三者	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
33	(16)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる		重度化・終末期への支援について、医療との連携のもとで、事業所が出来る事・出来ないことを契約時に利用者・家族に説明し納得を得ている。医療的依存度が高くなければ、対応可能な段階まで支援に努めている。重度化を迎えた段階で、かかりつけ医の意見等を参考にしながら家族等の意向確認と今後の支援方法を話し合う機会を設け、利用者・家族の意向に沿った支援に努めている。話し合った内容は、申し送りノートへの記載とケース記録に記録として残している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	実践できている。		
35	(17)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	実践できている。	隣接の同法人施設と合同で28年度は2回、昼間・夜間想定で利用者参加のもと、総合訓練を実施していることが記録から確認できる。29年度は、消防参加のもとで日中想定訓練を実施しており、事前計画書を全職員に配布している。訓練における消防からの指摘事項、課題等は申し送り時に伝達し、管理日誌に記載して周知を図っている。年度内に夜間設定で2回目の訓練を実施する予定である。運営推進会議で地域へ協力を呼び掛けている。併設施設が福祉避難所となっており、災害時の対応について、法人内で体制を整備している。備蓄については、施設と共同備蓄している。	

小規模多機能ゆとり庵一步

自己	者	第三	項目	自己評価	外部評価	
				実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援						
36	(18)		○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	実践できている。	「バーステックの原則」「パーソンセンタードケア」研修で、人格を尊重し誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応について学ぶ機会を持っている。不適切な言葉遣いや対応があれば、その都度職員個々に注意を促し意識向上に努めている。利用者の個人ファイル類は事務所の鍵のかかる書庫に、利用者名が見えないよう保管し、個人情報の適切な管理に努めている。写真使用については、契約時に家族の意向を確認している。	利用者の写真使用について、書面で同意を得ることが望まれる。
37			○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	実践できている。		
38			○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	実践できている。		
39			○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	実践できている。		
40	(19)		○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	実践できている。	施設の管理栄養士が献立を作成し、施設厨房で調理した食事が届けられている。献立には季節の食材や献立を採り入れると共に、2～3ヶ月に1回程度選択食の日を設け、毎月一日は赤飯等、食事を楽しめる工夫を多く取り入れている。食事変更届により、利用者の日々の体調に応じた食事形態に対応している。利用者参加で手作りおやつの日を設けたり、食事レクの機会も設け、利用者の好みと力量を活かしながら食事づくりに参加できるよう支援している。検食内容や残食量等を給食委員会で検討し、献立や調理法に利用者の嗜好や意見が反映できるように取り組んでいる。家庭環境等によっては夕食も提供している。	

小規模多機能ゆとり庵一步

自己	者	第三	項目	自己評価	外部評価	
				実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
41			○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	実践できている。		
42			○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	実践できている。		
43	(20)		○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	実践できている。	日勤・夜勤者がそれぞれ排泄支援を行いやすいよう夜間と日中に区分した「排泄表」を用いて、利用者個々の排泄の状況やパターンを把握している。必要な利用者には声掛け誘導を行い、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている。可能な限り同性で介助し、着座時にタオルを使用使用するなど、プライバシーや羞恥心に配慮している。手すりやペーパーホルダーが自宅と同じ向きに設置されたトイレを使用し、排泄の自立支援に努めている。	
44			○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	実践できている。		
45	(21)		○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	実践できている。	週2回以上の入浴を基本としているが、利用者の状況・体調・希望等に沿って対応している。更湯にし、個浴でゆっくりと入浴できるよう支援している。異性介助を嫌がる利用者には同性で対応し、入浴を嫌がる利用者には、職員や声かけのタイミング等を工夫し、個々に沿った支援に努めている。脱衣室ののれんは必ず使用し、可能な限り自立支援を促す等、プライバシーや羞恥心に配慮している。入浴剤の使用や、ゆず湯の機会を設け、季節を感じながら入浴を楽しむことができる支援に努めている。利用者の状況に応じてリフトを使用することも可能である。	

小規模多機能ゆとり庵一步

自己	者	第三	項目	自己評価	外部評価	
				実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
46			○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	実践できている。		
47			○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	実践できている。		
48			○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	実践できている。		
49	(22)		○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	実践できている。	利用者の希望に沿って、日常的にスーパーへの買い物や近隣の公園への散歩等に出かける機会を設けている。公民館でのバザーに利用者の作品を出品して地域の人に販売する機会を設けたり、餅つき等の行事にも参加している。車イスの人も、車イス対応車を利用して、利用者の移動に配慮しながら戸外に出かけられるよう努めている。また、お花見・コスモス畑等、普段は行けないような場所に出かけ、季節が感じられる外出を支援している。	
50			○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	実践できている。		
51			○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	実践できている。		

小規模多機能ゆとり庵一步

自己	者第三	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
52	(23)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	実践できている。	事業所内は落ち着いた色調で、清潔感があり、バリアフリーで高齢者に過ごしやすい環境である。台所が傍にあり調理の音や匂いが伝わり、家庭的な雰囲気が感じられる。壁面等には、季節を感じる書道の作品や生花を飾り、畳敷きの静養スペースを設ける等、居心地のよい共用空間づくりに努めている。広いベランダに菜園や花壇を作り、収穫した新鮮な野菜・果物が食卓に出されることもある。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	実践できている。		
54	(24)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	実践できている。	泊まりの部屋は、洋室が9室整備されており、ベット、タンス、椅子、加湿器等を準備し、温度計で室温管理を行っている。また、枕、電気毛布、テレビ、机、時計、家族の写真等使い慣れたものや好みのものが持ち込まれ、自宅での生活とギャップの少ない環境で過ごせるよう配慮している。また、利用者の状況、希望等によりベッド用のマットを敷いて、ゆっくりと寛げるように努めている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	実践できている。		